

～国語科より～

『話すこと・聞くこと』『読むこと』はおおむねよくできていました。特に『書くこと』の伝えたいことについて根拠を明らかにして書く問題では、記述式の問題にも関わらず、意欲的に回答しており、正答率もとても高いものでした。定期テストの作文や、日ごろの授業で「読者が納得のいく意見」を書く練習をしっかりとしている結果だと思います。『言語についての知識・理解・技能』の「封筒の書き方」を理解して書く問題には課題がありました。はがきの書き方についてはよく理解していますが、封筒など、様々な書式にふれることがこれから必要になってきます。生活の中の言葉について意欲をもってみていく習慣を身につけていく必要があります。

【問題別の傾向】

《正答率が高い》

領域と出題内容
《読むこと》 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。
《話すこと・聞くこと》 話し合いの話題や方向性を捉える。
《書くこと》 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。
《書くこと》 伝えたい事項について、根拠を明らかにして書く。
《言語についての知識・理解・技能》 語の一部を省いた表現について、話や文章の中で適切な活用の仕方を理解する。

《正答率が低い》

領域と出題内容
《読むこと》 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。
《言語についての知識・理解・技能》 封筒の書き方を理解して書く。

【今後の課題】

《読むこと》では、新聞やポスターなど様々なカテゴリーの文章の情報を整理し、内容を読みとる力をつけるための手法を自分のものにするために、思考ツールを使用したり、書き込みをしながら読む練習が必要です。また、《言語についての知識・理解・技能》では、目的に応じた様々な文書の書き方について授業で学んだり、生活の中で実感したりする機会を増やす必要があります。

～数学科より～

『数と式』・『関数』・『資料の活用』の3領域は、よくできていました。毎年、夏の課題でレポートを作成したり、定期テストの返却時に代表値（平均値、中央値、最頻値）の意味を確認していたこともあり、『資料の活用』の1年生での履修分野は正答率がかなり高かったです。しかし、2年生で履修した確率の単元の問題には課題が見られました。

『図形』の領域は、1ヶ月後に実施した学習確認プログラムではよくできていましたが、今回の正答率は高くありませんでした。

観点別：『数学的な見方や考え方』・『数学的な技能』『数量や図形などについての知識・理解』と

問題形式：『選択式』・『短答式』・『記述式』は、全てよくできましたが、『選択式』問題の誤答や無解答がその他の問題と比べると目立ったことは残念でした。

【問題別の傾向】

《正答率が高い》

領域と出題内容
大問2《数式》連立方程式を解く
大問4《関数》反比例の表から式を求める
大問6(2)《関数》式やグラフを用いて、問題を解決する方法を説明する
大問8(1)《資料の活用》表から最頻値を求める
大問8(2)《資料の活用》ヒストグラムの特徴を基に説明する
大問8(3)《資料の活用》わかったことの根拠として適切なものを選ぶ

《正答率が低い》

領域と出題内容
大問5《資料の活用：確率》2枚の10円硬貨を同時に投げる時、2枚とも表の出る確率
大問6(1)《関数》直線上の2点について、y座標の差が表すものを選ぶ

【今後の課題】

これまでの学習から、数学の力はある程度定着してきているように思われますが、『確率』のように、単発で学習が終わる単元は、その他の単元のように積み重ねがないので、求め方を忘れてしまっていたようです。今回の結果を受けて、学習の定着が不十分な分野を克服するために、これまでの学習を振り返って調べたり、質問をして解決していく必要があります。

今後の授業では、『正答を求める』ことはもちろん大事ですが、『なぜそうなるのか』お互いの意見を交流しながら求め方について考えていきます。

～英語科より～

『聞くこと』・『読むこと』・『書くこと』・『話すこと』の4観点のうち、『聞くこと』『話すこと』では授業でのがんばりを成果として発揮することができました。『読むこと』・『書くこと』には課題が見られました。

『読むこと』には、まとまりのある文章を読み、書き手が最も伝えたいことなど大切な部分をとらえることに、『書くこと』では語や文法事項を正しく用いて、文を書くことに課題が見られました。

【問題別の傾向】

《正答率が高い》

領域と出題内容
《聞くこと》 <ul style="list-style-type: none">・日常的な課題について、情報を正確に聞き取ることができる。・まとまりのある内容を聞き、概要や必要な情報をとらえることができる。
《話すこと》 <ul style="list-style-type: none">・まとまりのある文章を読んで、話のあらすじに関して伝えることができる

《正答率が低い》

領域と出題内容
《読むこと》 <ul style="list-style-type: none">・日常的な話題について、情報を正確に理解することができる。
《書くこと》 <ul style="list-style-type: none">・語や文法事項を正しく用いて、文を書くことができる。

【今後の課題】

《読むこと》各単元の文法的事項を理解し確実に定着させることや語彙力（単語をしっかりと覚える）が大切です。また、一文一文を訳読することよりも、文章全体を通して読み、大まかな内容を捉える力が必要です。

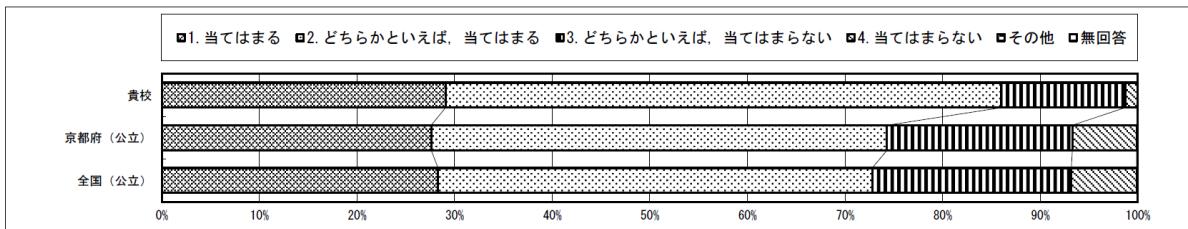
《書くこと》英語で書くことにつながる3技能（話す・聞く・読む）をしっかりと練習し、書く力をつけていくことが大切です。

英語の力につけるには、ただ覚えるのではなく、内容を理解した音読練習を繰り返すこと、ペア活動やALTによる活動に主体的に取り組むこと、習った表現を自分のことで使える（話す・書く）ようにすることが大切です。

～生徒質問紙より～

《授業時間での活動について》

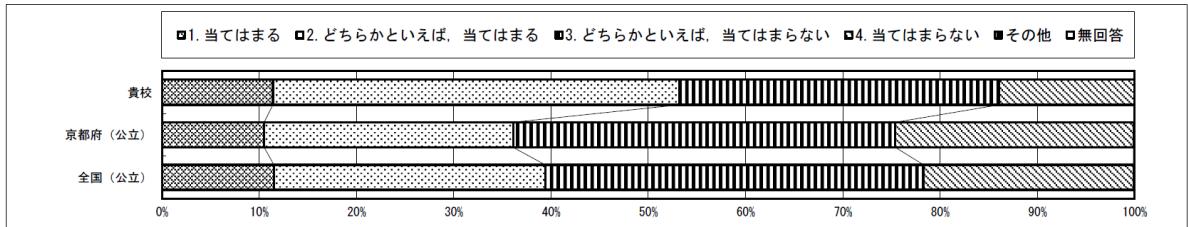
質問番号	質問事項											
(3 2)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	29.1	57.0	12.7	1.3							0.0	0.0
京都府（公立）	27.6	46.7	19.0	6.6							0.0	0.1
全国（公立）	28.3	44.5	20.4	6.7							0.0	0.1



「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という質問に対しては、当てはまるとどちらかといえば当てはまるまで加えると 86.1% の人がそう思うと答えています。日頃から、ペアやグループで活発に話し合い活動をしているので、お互いの意見交流ができていると思われます。また、国語や読書についての興味や関心が高い傾向が見られました。数学・英語については、国語に比べると苦手意識があるものの、勉強することは大切で、将来社会に出た時に役に立つと考えている人の割合が高かったです。

《地域や社会に何をすべきかについて》

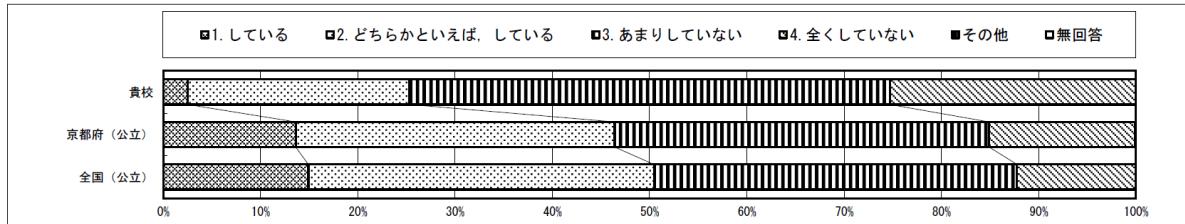
質問番号	質問事項											
(2 4)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	11.4	41.8	32.9	13.9							0.0	0.0
京都府（公立）	10.5	25.6	39.3	24.5							0.0	0.1
全国（公立）	11.5	27.9	38.9	21.6							0.0	0.1



「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか」という質問に対しては、当てはまるとどちらかといえば当てはまると答えた人までを合わせると、過半数の人が地域をよくするために何かしたいという想いを持っていることが分かりました。また、地域の行事に参加している割合も高かったです。地元をよくしたいという気持ちは、とても素晴らしいことです。

《学習習慣について》

質問番号	質問事項											
	(17) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	2.5	22.8	49.4	25.3							0.0	0.0
京都府（公立）	13.6	32.8	38.5	15.0							0.0	0.1
全国（公立）	14.9	35.5	37.3	12.2							0.0	0.0



「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問の結果を見ると「している」と答えた人がわずか2.5%しかいません。また、家庭学習を全くしないという人や、しても30分未満という人が多いようです。しかしながら、別の質問では、家庭学習は2時間以上しているという人も多くいます。このように、学習量に二極化が見られました。これまで家庭学習をする習慣がほとんどない人は、今後していく必要がありますし、この先も自主的・計画的な学習（仕事をやるとげる力）が必要です。

《自己有用感・将来の目標や夢について》

「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対しては、当てはまると答えた人の割合が全国と比べると低い傾向にありました。これまでの学校生活の様子からは、よいところは沢山あるように思われますので、もっと自分に自信を持ってよいと思います。これからも、教育活動の様々な場面で、自己有用感を高めていける取り組みをしていきます。

《規範意識について》

「学校の規則を守っていますか」という質問に対しては、当てはまると答えた人の割合が、全国と京都府が6割超えに対して、本校は5割を切り、低い傾向が見られました。普段の落ち着いた生活態度からすると意外な結果ですが、自分に厳しいのか、ルールを完全に守っていないという傾向が伺えました。

以上の結果から、生徒達は改善していかなければいけないポイントを自分自身で明らかにしてくれたのだと思います。あと残り7ヶ月。生活習慣・学習習慣を見直し、少しでも具体的な将来の夢や目標を持って、卒業を迎えるようにしたいものです。